

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

やましん歌壇掲載歌

◎令和六年十二月二十二日

佐藤幹夫選 時を経て社会貢献かたち変えシーズは死蔵のスーツやジャケット（*…

白石氏の写真）

井上管子選 門灯とポストに架かる蜘蛛の巣の白き際立つ霜降の朝（*）

毎月一度の投稿を始めて十年目に入り、その間に百八十二首の選歌掲載（月平均掲載率…

約11首）となっております。それらの中で自身の写真短歌の作品は八十一、共同制作の

作品は二十四で合計105作品となり歌壇に掲載された短歌の約58%を占めております。

◎令和六年十一月十日

佐藤幹夫選 いしぶみ 碑を覆いて蔓延る蔦の緑かたえの紫陽花枯れて残り（*…畠中氏

の写真）

◎令和六年九月十五日

佐藤幹夫選 腹を見せ横たわりおる落ち蟬に蟻の群がる今日は長崎忌

井上管子選 雨の止み紅花摘めば恵あり射し込む夕日は彩りの濃き（*…林氏の写真）

◎令和六年七月二十一日

佐藤幹夫選 参道の岩のはざまに祀られる小さき仏に羊歯生い茂る（*）

井上管子選 競い鳴く鶯の声掻き消してサイレン響きへり飛ぶ高原

◎令和六年六月二十三日

布宮雅昭選 鐘楼を背に群れ咲きし山吹の覆う斜面を風の吹き降る（*）

◎令和六年五月二十六日

井上管子選 茎立ちてクリスマスローズ群れており雪解ゆきげに目覚むる眠り姫のごと（*）

◎令和六年四月十四日

佐藤幹夫選（筆頭三席）人参の蒂を小皿にのせ置きて目をかけ声かけ愉しむ厨

（*…五十嵐氏の写真）

選評 日あたりの良いキッチン。水栽培で人参へたの蒂から葉を伸ばすのか。「目を

かけ声かけ」が如何にも楽しそう。再生、持続の意識も歌の底にありそうだ。

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎令和六年三月十七日
布宮雅昭選 山頂で出会いし人らと黙禱す二時四十六分わが東北忌（*）

佐藤幹夫選 川べりに華やぐような雪の花を自然の妙と見つつ儂む（*…土田氏の写真）

井上管子選 築山のにわか仕立てのゲレンデに響く歓声子らの箱ぞり（*）

◎令和六年一月二十一日

佐藤幹夫選 悔しかり野菜のトマト浮かび来ず認知機能の検査問題（*）

井上管子選 花小路のおもかげ求めて秋まつり集える人らは日がな一日（*…大場氏の写真）

◎令和五年十一月十九日

井上管子選 山の峯「天使の梯子」架かりけり一点照射に際立つ秋色（※6）

◎令和五年十月二十二日

佐藤幹夫選 走りものの無花果求めジャムづくり秋を呼び込む男の厨（*）（※6）

布宮雅昭選 敗戦を三四半世紀終戦と言い風化する八月十五日（*）（※6）

◎令和五年九月二十四日

佐藤幹夫選（筆頭一席） 雪溪の融くる流れに手を浸し十秒間の痺れたのしむ（*）（※6）

選評 大きな雪溪の下を流れ出る水の冷たさ、「十秒間の痺れたのしむ」は夏山の

醍醐味。下界の猛暑を忘れ、憂き世を忘れて頂上まであと一息なのだろう。

井上管子選 ごみを出すわれの先ゆく一匹のあきつに気付く今日広島忌（※6）

◎令和五年八月二十七日

布宮雅昭選 漂える午睡の後の畳の香遠くに微かに郭公の声（※6）

◎令和五年七月十六日

井上管子選 訪問者の期待の百花に添うがごと綿毛飛び交うオープンガーデン（*）（※6）

布宮雅昭選 朝の陽の射し込む田の面の水かがみ早苗は帯に浮かび立ちくる（*…吉田氏

の写真）

◎令和五年五月二十一日

佐藤幹夫選 震災の十三回忌を前にして専断されたる原発回帰（※6）

布宮雅昭選 春浅き冷え込む朝の散歩道轍一筋日に煌めけり（※6）

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎令和五年四月二十四日

井上管子選 凜と立つ白樺の背に青き空大樹の木肌の白の眩しき（*…三浦氏の写真）

◎令和五年三月二十七日

佐藤幹夫選 雪燃ゆると見紛うばかりゲレンデのライトアップとうごめく松明（*…岡崎氏の写真）

◎令和五年二月二十七日

佐藤幹夫選 月山道行くも止まるも地獄なり闇夜に加わるホワイトアウト（*…加藤氏の写真）

井上管子選 冬枯れの枝に戯るる山雀に見惚れて憶ふわが幼少期（*…三浦氏の写真）

◎令和五年一月三十日

佐藤幹夫選 散りてなほ枝に架かりし枯葉らの揺れてあらがふ小春の風に（*）（※6）

◎令和四年十二月二十六日

佐藤幹夫選 ヴェネツィアの恋人たちの息づかひ不意に湧き出づ古きアルバム（*）（※5）

◎令和四年十月三十一日

井上管子選 落陽と友らとワインと潮騒に自肅の澱の消えゆく晩夏（*…岡崎氏の写真）

◎令和四年九月十九日

大滝 保選 小鳥らとジュンベリーの収穫を競うも譲る「共生」のため（*）（※5）

佐藤幹夫選 脱サラしはや十五年の友の茄子いまや手練れの栽培モデル（*…山田氏の写真）

◎令和四年八月二十二日

井上管子選 コロナ禍を娘と語る三日間われら夫婦の未来予想図（*）（※5）

大滝 保選（筆頭三席） 朽ちてなお青空割ききて凜と立つ白骨木は樹林の中に（*）（※5）

選評 「白骨木」とは樹皮が剥がれて真っ白になった巨大な枯れ木。枯れてもなお威厳と風格を生きた樹林の中で誇示している。上の句に勢いがある。

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌」作品） ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎令和四年六月二十七日

佐藤幹夫選 山里の早苗の田の面に映りおる雪斑なる飯豊の山並み（*…安孫子氏の写真）

井上管子選 連れ合いと歩みこし日々半世紀はからいささやかコロナ禍の宴（*）（※5）

大滝 保選 春さなか芽吹く雑木々従えて勇者のごと立つ辛夷の白し（*）（※5）

◎令和四年五月十六日

佐藤幹夫選 他人ごとと言えぬ歴史ありわが国の百年前の言論統制

大滝 保選 咲き匂う桜の前の老いふたり背に漂えり借老の日々（*）（※5）

◎令和四年三月二十一日

井上管子選 七五三の絵馬の写真を成人の祝いに添える社務所の計らい（*…林氏の写真）

大滝 保選 窓開くれば大寒の朝の西空に輝く白き立待の月

◎令和四年二月二十一日

佐藤幹夫選 首失せて寄り添い並ぶ道祖神古道の辺の朽ち葉の海に（*…森川氏の写真）

◎令和四年一月二十四日

井上管子選 風が風ぎさざ波消ゆる杜の池逆さ紅葉の綾錦なる（*）（※5）

◎令和三年十二月二十日

佐藤幹夫選 冬立ちて霜の朝の蜘蛛の巣は星をかたどり過客を癒す（*…黒田氏の写真）

◎令和三年十一月八日

大滝 保選 一条の縄で括られしんと立つ夕光ゆうかげの射す墓じまいの石（*）（※4）

◎令和三年十月十八日

井上管子選 ゆく夏を惜しむがごとく鳴き頻る蝉と迎うる敗戦忌の昼（※4）

◎令和三年九月二十日

大滝 保選 一匹の車窓の飛蝗に甦りふと口遊さむ「いまはもう秋」（*…兼子氏の写真）

◎令和三年八月二十三日

佐藤幹夫選 熊避けの鈴の音近づき遠ざかるいつもの山路いつもの挨拶（*）（※4）

井上管子選 咲き揃う我が家の貌の夏椿しのつく雨に濡れそぼち立つ（*）（※4）

◎令和三年六月十五日

佐藤幹夫選 ふる里の伝承絶えし獅子頭設ふ古祠に父の面影（*…畠中氏の写真）

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

井上管子選 うぐいすの初鳴き届きおぼすと目覚むる朝はコロナ禍の春（※4）

大滝 保選 廢屋の狭庭の草花風に揺れ主の去りしを知るや知らずや（※4）

◎令和三年四月十九日

佐藤幹夫選 名を刻す指輪で特定されし友散りし砂漠禍祈る十回忌（※4）

井上管子選 健診日謝りてなわが腕に三度の針射す新人看護師（※4）

大滝 保選 亡き母の形見の日記に挿まれし彼岸の兄の記事の懐かし（※4）

◎令和三年二月二十二日

大滝 保選 雪纏い墨絵の如き裸木に重ねて憶えり新緑紅葉（*）（※4）

◎令和三年一月二十五日

井上管子選 寄贈せし己が冊子の納まりし書架の一隅舞台のごとし（*）（※4）

◎令和二年十二月二十一日

佐藤幹夫選 粟島に重なり見ゆる影月山出で合う幸をひとり噛みしむ（*…吉田氏の写真）

大滝 保選 サックスの音に誘われ公園を辿れば若者壁に向きおり（*）（※3）

◎令和二年十一月二十三日

井上管子選 風情より取り外しの手間難渋に夏簾揺れはや秋の風（*）（※3）

◎令和二年十月二十六日

佐藤幹夫選 「おとうさん」幼い文字の絵日記が不意に現るキャビネットの奥（*）（※3）

大滝 保選 かなかなが呼び水となり虫時雨黄昏賑わい小夜へと向かう

◎令和二年九月二十八日

佐藤幹夫選 朝摘みのバジリコの葉を広げ干す狭き厨にアジアの香満つ（*）

井上管子選 郭公に野鳩加わりデュオとなる遠雷幽か半夏生の朝（※3）

◎令和二年八月三十一日

佐藤幹夫選 戦時下の「欲しがりません」浮かびくる新生活のメディアの喧伝（※3）

◎令和二年八月三日

佐藤幹夫選 山の路日の射す片方にハルジオン蝶と戯れ我を誘う（*）

井上管子選 白マスク一枚加わる夜更え初夏の風切り列なす自転車

大滝 保選 風そよぎ甘き香流るる山路にニセアカシアの大樹揺れおり（*）（※3）

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎令和二年五月二十五日

井上管子選 露味噌は春の使いと立つ厨レシビ片手に男の一品（*）（※3）

大滝 保選 コロナ禍にインバウンドの災いし拡散止まらぬ日本列島（※2）

◎令和二年四月二十七日

佐藤幹夫選 なごり雪「これがそうか」と呟けり妻も鎖く春の往還（*）（※3）

◎令和二年三月三十日

井上管子選 脚本の台詞の間合いに仕組まれて際立つ沈黙饒舌凌ぐ（※2）

大滝 保選 凍てし道粉雪の下に隠れおり歩みは摺り足ゴミを出す朝（※3）

◎令和二年三月二日

佐藤幹夫選 薄墨の便りが届きまた一つ住所録から友の名を消す（※2）

◎令和二年二月三日

佐藤幹夫選 ひたすらに我癒されし「白い森」おぐにの秋の懐深し（*）

井上管子選 黄昏るる湖面に溶け込む秋の山墨絵にも似てこころ風ぐ時（*）（※3）

◎令和元年十二月十六日

佐藤幹夫選 山もみじタ影受けて色まさり映る湖面は合わせ鏡に（*）

大滝 保選 ハイカーの標しるべならんと咲き並び山路を誘うりんどうの群れ（*）（※1）

◎令和元年十一月十八日

佐藤幹夫選 寺の秋茶会の前の挨拶は仏縁地縁の訛り溢れて（*）（※1）

井上管子選 風に乗り笛の音届く散歩道辿れば吹き手東屋に居り（*）

◎令和元年十月二十一日

佐藤幹夫選 足元に蚊遣り焚きつつ登り窯の火入れ待ち居る窯主ひとり（*…土田氏の写真）

大滝 保選 風鈴に虫の音加わりコンチェルト主役の代わりはや秋の風（※1）

◎令和元年九月二十三日

井上管子選 十五歳父の遺骨を抱き帰る双葉町の墓に夏の日落ちき（※1）

◎令和元年八月二十六日

佐藤幹夫選 「寄り添う」の言葉の重さ比べ読む沖繩語る今朝の新聞（※1）

大滝 保選 山あいのオーブンガーデン風そよぐ鮮あざやぐ初夏を妻と頌わかてり（*）（※1）

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌」作品） ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎令和元年七月二十九日

阿部京子選 郭公の声のリレーに誘われ歩む山道こみどり萌黄（*）

井上管子選 銀竜草朽葉押し分け株立てり過客を癒す山の辺の道（*）

◎令和元年六月十一日

阿部京子選（筆頭三席） 石蹴りの筋跡避けて草むしる桜の蕾ほころぶ公園（※1）

選評 自身の、幼いころの思い出が脳裏を過って生まれた心配りであろう。

ごはんに遊びを止めて帰った記憶。明日の続きの為に「避けて」が効いた。

大滝 保選 山里の田舎芝居の幕の下り夜の帳に桜舞い散る（*）（※1）

◎令和元年五月

井上管子選 改元が紙面に躍り朝の雪解けて路面は煌めく鏡

◎平成三十一年四月

阿部京子選（筆頭一席） めぐり来る建国記念日新聞に是非論載りしも遙かとなりぬ（※1）

選評 皇国史観で教育を受け、戦後全てを否定されて戸惑った。四大節の一つ

「紀元節」を「建国記念日」と変えることに世論沸騰した頃への感慨を詠んだ。

大滝 保選 核を持つ国が他国へ求めたる放棄の論理に不条理覚ゆ（※1）

◎平成三十一年三月

井上管子選 手織り機に横糸通す杼ひの如く人を繋ぎてまちづくりなる

◎平成三十一年二月

大滝 保選 新聞を配りし人の自転車の轍わだち一筋初雪の朝

◎平成三十一年一月

阿部京子選 参道の日の斑を踏みて黄落に誘われゆく黄昏の道

井上管子選 求人誌派遣やパートが幅利かせ先の読めない社会となりぬ（*）

◎平成三十年十二月

阿部京子選 山頂の標識に残る忘れ物サングラスに映る秋の白雲（*）

大滝 保選 千余段杖を頼りに登り来し人に応うる夕山紅葉（*）

◎平成三十年十一月

阿部京子選 谷向こうに西日を受けて照るもみじ見つつ語らう老いの背ふたつ（*）

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎平成三十年十月

阿部京子選 疾歩するハイカー独り馬の背の遥か彼方にはや秋の雲（*）

井上管子選 戦いの痕跡残る土墨脇鳥居の陰の群れ曼珠沙華（*）

大滝 保選 高原の広場の隅に読書する人の傍らをアスリートら過ぐ（*）

◎平成三十年八月

阿部京子選 姫沙羅の花弁に残るひと雫真夏の空の青映しおり

井上管子選 日捲りの暦のごとく政策の消えては現れ言葉が躍る

大滝 保選 高原の藪を掻き分け進む先叢れ咲く^{あやめ}菖蒲に擦り傷忘る（*）

◎平成三十年六月

阿部京子選 春の暮の花散り果てし山里の黄昏時は緑のとばり（*）

井上管子選 お達磨の白いやかなる江戸彼岸いにしえ人の心を映し（*）

大滝 保選 地方にもインバウンドの波至り行楽の地に多国語溢る（*）

◎平成三十年五月

阿部京子選 道の辺の祠の裏は春さなか日影うらうらカタクリ群れて（*）

◎平成三十年四月

阿部京子選 参道の連なる日の斑に落ち椿御堂へ誘ふ^{しるべ}標となりぬ

井上管子選 御堂へと続く参道雪積みて鳥居を前に佇み祈る（*）

大滝 保選 一輪の流れ着きたる雪椿堪えぬきし冬を緋に秘めており（*）

◎平成三十年二月

阿部京子選 霧の朝佇む岸边凍みこごり鳥の一声静けさを裂く

井上管子選 中東で散りし友らの七回忌雪の凍む朝この地で祈る

大滝 保選 恒例の暮れの作業の近づけり竹馬の友の名リストより消せず

◎平成三十年一月

阿部京子選 一病とつき合いてはや半世紀遊行の門への錫杖とせむ

◎平成二十九年十二月

阿部京子選 散りもみじ甦らせて水の面は新たな舞台漣もなし（*）

井上管子選 街中の空家の庭先山とあるくらしの品の朽ちゆくが見ゆ（*）

やましの歌壇掲載歌

*：写真短歌」作品） ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年） ※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

◎平成二十九年十一月

阿部京子選 猫じゃらし路肩に揺るる田舎道踏む松落葉足に優しき

大滝 保選 幸せのきざしか突如の二重虹雨の上がりし刈田に架かる（*）

◎平成二十九年十月

阿部京子選 荒沼に墨絵の時間流れきて湖の面は鏡の舞台（*）

井上管子選 リリリリ白露の宵の暗がりの音色に応ふる仲間のリリリ

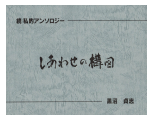
◎平成二十九年九月

阿部京子選 帰国せしパリの友との語らいの話題いまだに原発震災

井上管子選 草花を巡りて出で逢ふ酔芙蓉口遊みけり「風の盆恋歌」（*）

大滝 保選 久々に友と語らふショットバーカクテルグラスに汗の伝ふる

以下（平成26年3月～平成29年7月）の52首は平成29年11月発刊の私的アンソロジー「あわせの構図」に掲載しております。



◎平成二十九年七月

大滝 保選（筆頭一席） 断捨離の成果の箱を古書店へこころ残りの帰路はたそがれ（*）

選評 断捨離とばかりに箱一杯の古本を出したが、後悔の念も消えない。結句の

「たそがれ」は「人生の黄昏れ」の心象でもあろう。気持ちの分かる歌。

井上管子選 松蟬に蓮華つつじが色を添へ谷地沼にはや夏のよそほひ（*）

◎平成二十九年五月

井上管子選 待ち切れぬ心たずさえ春探しぬかるみ避け行く城址の小路

大滝 保選 大根のおろしのごとき雪積る卒業式の朝の通路に

◎平成二十九年四月

阿部京子選 春の日の射し込む御堂に祈りおり耳を澄ませば雪解の瀬音

大滝 保選 目覚めれば鳥の囀り耳に入る障子明るく春をうつせり

◎平成二十九年三月

井上管子選（筆頭二席） いつからか知己の名探す「おくやみ欄」

思い湧きいづわが名の載る日（*）

選評 歌に詠んだことはないが同じ思いをしたことがある。という人は多いはず。

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌「作品」 ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

知己の名探すからわが名の載る日までの軽やかな調べに、重い内容が救われる。

阿部京子選 行き暮れて辿りつきたり道の辺のコンビニにはや夕光は射す

◎平成二十九年二月

大滝 保選 新学期子らの弁当始まりぬ朝の隣家にたまご溶く音

◎平成二十九年一月

阿部京子選 生活の脚の手立てを置き去りに免許返上ひとり歩きす

井上管子選 寒風を割きて上れる噴水は幕と広がり山裾隠す（*）

◎平成二十八年十二月

阿部京子選 小走りに園児らがゆく黄葉路あいさつ響く霜月のあさ（*）

◎平成二十八年十一月

井上管子選 薄暗き朝の目覚めに鳩鳴けりクウクウクク秋はきており

大滝 保選 涼求め車で走るすすき道フロントかすめあきつ群れ飛ぶ

◎平成二十八年十月

阿部京子選 新涼は行きつ戻りつ庭先の虫の世界へ秋の往還

◎平成二十八年九月

井上管子選 早苗饗のテレビ映像眼に留り忽と戻りぬ少年の頃に

大滝 保選 あさまだき目覚めの一杯の白湯旨し備忘録記す手も捗りぬ

◎平成二十八年七月

井上管子選 管理下と言われて久しきフクシマの海は黙してメディアが語る

大滝 保選 雪残る霊峰を背に芝ざくら覆える堤は王朝絵巻（*）

◎平成二十八年六月

阿部京子選 公園の軋んで揺れるブランコに遊んだ子らの気配が残る（*）

◎平成二十八年五月

井上管子選 今の世に広まる「絆」気に留まり「枷」の意味もつ「ほだし」の読みしる（*）

大滝 保選 いつよりか「世話にはならぬ」が揺らぎをり遠くに暮らす娘と語れば

◎平成二十八年四月

阿部京子選 淡雪がうすく積もれる朝の道足跡ひと筋わが先にあり

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌」作品） ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年） ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠（2021年） ※4：同第40集年刊歌集出詠（2022年）
※5：同第41集年刊歌集出詠（2023年） ※6：同第42集年刊歌集出詠（2024年）

井上管子選 雪の道手を取り歩む老いふたり交はす笑みにもにじむ年輪

◎平成二十八年三月

阿部京子選（筆頭一席） 雪原を一輛列車進み行く女子高生のにぎわい乗せて（*…長谷川氏の

写真）

選評 過疎地をつなぐローカル線の通勤通学時にもみ賑わう一輛の情景。簡潔にまとめられた。評も簡潔に終わる。

井上管子選 屋根を打つ微かなる音に心解く雨水間近い目覚めの朝に

大滝 保選 たまさかの妻の不在に慣れぬ家事先行き危ぶむ思い湧きいず

◎平成二十八年二月

大滝 保選 起業よりはや十五年廃業の意思を固めぬ勤労感謝日

◎平成二十七年十一月

阿部京子選（筆頭三席） 遠き山近き紅葉を水面に浮かべて池は秋の万華鏡（*）

選評 遠景、近景すべてを映す水面の華やかさを「万華鏡」と捉えた。

心の動きに雑念がなく直線的な描写が心地よい。

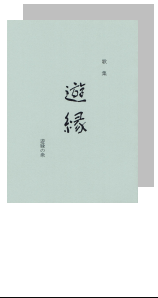
井上管子選 いつからかシルバークと呼べれおれ老いを敬う想い遠のく

◎平成二十七年九月

井上管子選 かなかなの途切れる声にかなかなと遠くで応えるかなかなの声

大滝 保選 フェンス越しのプールで拳がる歓声に幼き日々の想い出湧き来

以下の20首は平成27年11月発刊の遊縁の衆の歌集「遊縁」に掲載しております。



◎平成二十七年七月

井上管子選 祭りへと歩みを揃う親子連れすがしき初夏の山間の道（*）

◎平成二十七年六月

阿部京子選 戦争を知らない世代が世の中を動かす社会いつか来た道

◎平成二十七年五月

井上管子選 懐かしきむかしのテンポよみがえり委ねて歩む都心の雑踏

やましん歌壇掲載歌

*：写真短歌」作品) ※1：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠(2020年) ※2：同会報74号近詠三首出詠 ※3：同第39集年刊歌集出詠(2021年) ※4：同第40集年刊歌集出詠(2022年)
※5：同第41集年刊歌集出詠(2023年) ※6：同第42集年刊歌集出詠(2024年)

◎平成二十七年四月

阿部京子選 ウェブサイト食のレシピが溢れおり貧しき時代遙かとなりて

◎平成二十七年三月

井上管子選 十年の歩みを話す機会得て浮かび上がりぬマイライフワーク
高橋光義選 雪いろの町を歩めば甦る遥か昔の通学の路

◎平成二十七年一月

井上管子選 枯れ野原春の彩まぼろしに黄昏早く秋が身に染む(*)
高橋光義選 高齢と言えども今はタブレット連れ合い待たせて画像に残す(*)

◎平成二十六年十一月

井上管子選 新幹線車窓の先の錦秋に思わず止まる弁当の箸

◎平成二十六年七月

井上管子選 会合を終えたる昼を軒先の燕話題に再び賑わう
高橋光義選 木漏日がいぎなう小道その先の休みどころにひとの気配なし(*)
阿部京子選 主去りし家の庭先草繁し人の気配の露もとどめず
主去りし家の庭先草枯れて人の気配の露もとどめず(*)

◎平成二十六年六月

阿部京子選 春蘭にまた逢えたねと声かけぬ春まだ浅き山路の片方かたえ(*)
高橋光義選 春寒し蝶もしばしの羽根休み山の小径の陽だまりの中(*)

◎平成二十六年五月

井上管子選 春の彼岸に残雪踏みて墓掃除想い行き交う彼岸と此岸
高橋光義選 地鎮祭願い通じて雪の止み友の住居に祝詞流るる

◎平成二十六年四月

阿部京子選 誰そ彼が黄昏となる万葉の世界にひとりひとを想えり(*)
高橋光義選 精検を待つ間の長さ息苦し交わす目線に共感覚ゆ

◎平成二十六年三月

阿部京子選 風邪に臥し久々に見る夢の中母の十八番の懐かしき粥
井上管子選 冬の列車は吹雪く山あい割きて行く向う先にはフクシマの街(*)